

1

解答解説のページへ

$\log$  を自然対数,  $e$  をその底とする。次の問いに答えよ。

- (1)  $x \geq 0$  のとき,  $x - \frac{x^2}{2} \leq \log(1+x) \leq x - \frac{x^2}{2} + \frac{x^3}{3}$  が成り立つことを示せ。
- (2)  $t \geq 0$  とする。次の極限を  $t$  を用いて表せ。  $\lim_{n \rightarrow \infty} e^{nt} \left(1 + \frac{t}{n}\right)^{-n^2}$
- (3) (2)で求めた極限を  $f(t)$  とおく。このとき,  $\int_0^{100} f(t) dt < \frac{e^{5000}}{50}$  が成り立つことを示せ。

**2**

解答解説のページへ

$n$  を 2 以上の整数とする。1 から 6 までの目のある 1 個のさいころを  $n$  回続けて投げるとき、 $n$  回目で初めて直前の回と同じ目が出る確率を  $P_n$  で表す。次の問いに答えよ。

- (1)  $P_n$  を  $n$  を用いて表せ。
- (2)  $S_n = \sum_{k=2}^n P_k$  を  $n$  を用いて表せ。
- (3)  $S_n \geq \frac{1}{2}$  となる最小の  $n$  を求めよ。
- (4)  $E_n = \sum_{k=2}^n kP_k$  を  $n$  を用いて表せ。

3

解答解説のページへ

$p, q$  を自然数とする。次の問いに答えよ。

- (1)  $p = 7, q = 11$  のとき、等式  $px + qy = 1$  を満たす整数  $x, y$  の組を 1 つ求めよ。
- (2)  $p = 6, q = 9$  のとき、等式  $px + qy = 1$  を満たす整数  $x, y$  の組は存在しないことを示せ。
- (3)  $i$  を虚数単位とする。自然数  $n$  に対して、集合  $X_n$  を

$$X_n = \left\{ \left( \cos \frac{2\pi}{n} + i \sin \frac{2\pi}{n} \right)^k \mid k \text{ は整数} \right\}$$

と定める。また、等式  $px + qy = 1$  を満たす整数  $x, y$  の組が存在すると仮定する。このとき、集合  $X_{pq}$  に属するすべての数は、 $X_p$  に属する数と  $X_q$  に属する数の積で表されることを示せ。

- (4) 集合  $X_n$  は(3)で定めたものとする。複素数  $\cos \frac{2\pi}{pq} + i \sin \frac{2\pi}{pq}$  が  $X_p$  に属する数と  $X_q$  に属する数の積で表されるとき、 $p$  と  $q$  は互いに素であることを示せ。

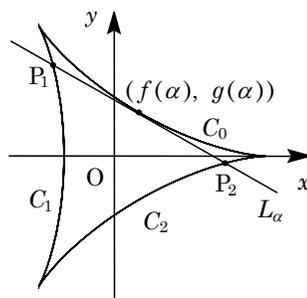
4

解答解説のページへ

実数  $t$  に対して,

$$f(t) = 2\cos t + \cos 2t, \quad g(t) = 2\sin t - \sin 2t$$

とおく。 $t$  を媒介変数として  $x = f(t)$ ,  $y = g(t)$  で表される  $xy$  平面上の曲線のうち,  $0 < t < \frac{2}{3}\pi$ ,  $\frac{2}{3}\pi < t < \frac{4}{3}\pi$ ,  $\frac{4}{3}\pi < t < 2\pi$  の部分をそれぞれ  $C_0$ ,  $C_1$ ,  $C_2$  とする。また,  $0 < \alpha < \frac{2}{3}\pi$  を満たす定数  $\alpha$  に対して, 点  $(f(\alpha), g(\alpha))$  における  $C_0$  の接線を  $L_\alpha$  とする。次の問いに答えよ。



$C_0, C_1, C_2$  の概形

(1) 次の等式を示せ。

$$f(t)\sin\frac{\alpha}{2} + g(t)\cos\frac{\alpha}{2} = 2\sin\left(t + \frac{\alpha}{2}\right) - \sin\left(2t - \frac{\alpha}{2}\right)$$

(2) 次の等式を示せ。

$$(f(t) - f(\alpha))\sin\frac{\alpha}{2} + (g(t) - g(\alpha))\cos\frac{\alpha}{2} = 4\left(\sin\frac{t-\alpha}{2}\right)^2 \sin\left(t + \frac{\alpha}{2}\right)$$

(3) 接線  $L_\alpha$  の傾きを  $\tan\theta$  と表す。ただし  $-\frac{\pi}{2} < \theta < \frac{\pi}{2}$  とする。このとき,  $\theta$  を  $\alpha$  を用いて表せ。

(4)  $L_\alpha$  と  $C_1$  の交点を  $P_1$  とし,  $L_\alpha$  と  $C_2$  の交点を  $P_2$  とするとき, 線分  $P_1P_2$  の長さは  $\alpha$  によらず一定であることを示せ。

1

問題のページへ

(1)  $x \geq 0$  において、 $g(x) = \log(1+x) - x + \frac{x^2}{2}$  とおくと、

$$g'(x) = \frac{1}{1+x} - 1 + x = \frac{1 + (-1 + x^2)}{1+x} = \frac{x^2}{1+x} \geq 0$$

すると、 $x \geq 0$  で  $g(x) \geq g(0) = 0$  となり、 $\log(1+x) \geq x - \frac{x^2}{2}$  ……①

また、 $h(x) = x - \frac{x^2}{2} + \frac{x^3}{3} - \log(1+x)$  とおくと、

$$h'(x) = 1 - x + x^2 - \frac{1}{1+x} = \frac{(1-x^2) + (x^2+x^3) - 1}{1+x} = \frac{x^3}{1+x} \geq 0$$

すると、 $x \geq 0$  で  $h(x) \geq h(0) = 0$  となり、 $\log(1+x) \leq x - \frac{x^2}{2} + \frac{x^3}{3}$  ……②

①②より、 $x \geq 0$  のとき、 $x - \frac{x^2}{2} \leq \log(1+x) \leq x - \frac{x^2}{2} + \frac{x^3}{3}$  ……③が成り立つ。

(2)  $t \geq 0$  において、 $P(n) = e^{nt} \left(1 + \frac{t}{n}\right)^{-n^2}$  とおくと、

$$\log P(n) = \log e^{nt} \left(1 + \frac{t}{n}\right)^{-n^2} = nt - n^2 \log\left(1 + \frac{t}{n}\right) \dots\dots\dots④$$

$\frac{t}{n} \geq 0$  なので、③から、 $\frac{t}{n} - \frac{1}{2} \cdot \frac{t^2}{n^2} \leq \log\left(1 + \frac{t}{n}\right) \leq \frac{t}{n} - \frac{1}{2} \cdot \frac{t^2}{n^2} + \frac{1}{3} \cdot \frac{t^3}{n^3}$  となり、

$$-nt + \frac{1}{2}t^2 - \frac{1}{3} \cdot \frac{t^3}{n} \leq -n^2 \log\left(1 + \frac{t}{n}\right) \leq -nt + \frac{1}{2}t^2$$

④から、 $\frac{1}{2}t^2 - \frac{1}{3} \cdot \frac{t^3}{n} \leq \log P(n) \leq \frac{1}{2}t^2$  となり、 $n \rightarrow \infty$  のとき  $\frac{1}{3} \cdot \frac{t^3}{n} \rightarrow 0$  なので、

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \log P(n) = \frac{1}{2}t^2$$

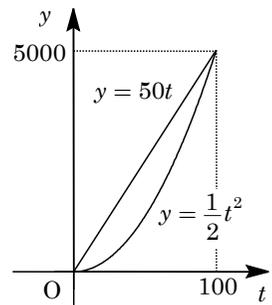
対数関数は定義域で連続なので、 $\lim_{n \rightarrow \infty} P(n) = \lim_{n \rightarrow \infty} e^{nt} \left(1 + \frac{t}{n}\right)^{-n^2} = e^{\frac{1}{2}t^2}$  である。

(3) (2)から  $f(t) = e^{\frac{1}{2}t^2}$  となり、 $0 \leq t \leq 100$  において、

$$50t - \frac{1}{2}t^2 = \frac{1}{2}t(100 - t) \geq 0$$

これより  $\frac{1}{2}t^2 \leq 50t$  となり、 $e^{\frac{1}{2}t^2} \leq e^{50t}$  から、

$$\begin{aligned} \int_0^{100} f(t) dt &= \int_0^{100} e^{\frac{1}{2}t^2} dt \leq \int_0^{100} e^{50t} dt \\ &= \left[ \frac{1}{50} e^{50t} \right]_0^{100} = \frac{1}{50} (e^{5000} - 1) < \frac{e^{5000}}{50} \end{aligned}$$



**[解 説]**

微積分の総合問題です。(1)と(2)は頻出タイプですが、(3)は誘導がないために難度が高くなっています。解答例では、右上の図から被積分関数の評価式を作っています。

2

問題のページへ

- (1) さいころを  $n$  回投げるとき、 $n$  回目で初めて直前の回と同じ目が出るのは、1 回目は任意の目、 $k$  回目 ( $2 \leq k \leq n-1$ ) は  $k-1$  回目と異なる目、 $n$  回目は  $n-1$  回目と同じ目が出る場合より、その確率  $P_n$  は、 $n \geq 3$  で、

$$P_n = 1 \cdot \frac{5}{6} \cdot \frac{5}{6} \cdots \frac{5}{6} \cdot \frac{1}{6} = \frac{1}{6} \left( \frac{5}{6} \right)^{n-2}$$

なお、この式は  $n=2$  のときも成立している。

$$(2) S_n = \sum_{k=2}^n P_k = \frac{1}{6} \sum_{k=2}^n \left( \frac{5}{6} \right)^{k-2} = \frac{1}{6} \cdot \frac{1 - \left( \frac{5}{6} \right)^{n-1}}{1 - \frac{5}{6}} = 1 - \left( \frac{5}{6} \right)^{n-1}$$

- (3)  $S_n \geq \frac{1}{2}$  のとき、 $1 - \left( \frac{5}{6} \right)^{n-1} \geq \frac{1}{2}$  より  $\left( \frac{5}{6} \right)^{n-1} \leq \frac{1}{2}$  となり、

$$\frac{1}{2} \left( \frac{6}{5} \right)^{n-1} \geq 1, \quad \frac{6^{n-1}}{2 \cdot 5^{n-1}} \geq 1 \cdots \cdots (*)$$

すると、 $n$  の増加にともなって、 $\frac{1}{2} \left( \frac{6}{5} \right)^{n-1}$  は単調に増加するので、右表から、 $n \geq 5$  のとき (\*) を満たす。

| $n$ | $6^{n-1}$ | $2 \cdot 5^{n-1}$ |
|-----|-----------|-------------------|
| 2   | 6         | 10                |
| 3   | 36        | 50                |
| 4   | 216       | 250               |
| 5   | 1296      | 1250              |

よって、 $S_n \geq \frac{1}{2}$  となる最小の  $n$  は 5 である。

$$(4) E_n = \sum_{k=2}^n k P_k = \frac{1}{6} \sum_{k=2}^n k \left( \frac{5}{6} \right)^{k-2} = \frac{1}{6} \cdot 2 \cdot 1 + \frac{1}{6} \cdot 3 \cdot \frac{5}{6} + \frac{1}{6} \cdot 4 \left( \frac{5}{6} \right)^2 + \cdots + \frac{1}{6} \cdot n \left( \frac{5}{6} \right)^{n-2}$$

すると、 $n \geq 3$  で、

$$E_n - \frac{5}{6} E_n = \frac{1}{6} \cdot 2 \cdot 1 + \frac{1}{6} \cdot \frac{5}{6} + \frac{1}{6} \left( \frac{5}{6} \right)^2 + \cdots + \frac{1}{6} \left( \frac{5}{6} \right)^{n-2} - \frac{1}{6} n \left( \frac{5}{6} \right)^{n-1}$$

$$E_n = 2 \cdot 1 + \frac{5}{6} + \left( \frac{5}{6} \right)^2 + \cdots + \left( \frac{5}{6} \right)^{n-2} - n \left( \frac{5}{6} \right)^{n-1} = 2 + \frac{5}{6} \cdot \frac{1 - \left( \frac{5}{6} \right)^{n-2}}{1 - \frac{5}{6}} - n \left( \frac{5}{6} \right)^{n-1}$$

$$= 2 + 5 \left\{ 1 - \left( \frac{5}{6} \right)^{n-2} \right\} - n \left( \frac{5}{6} \right)^{n-1} = 7 - (n+6) \left( \frac{5}{6} \right)^{n-1}$$

なお、この式は  $n=2$  のときも成立している。

### [解説]

確率を題材とした数列の和に関する基本題です。

3

問題のページへ

- (1)  $7x+11y=1$  を満たす 1 組の整数  $(x, y)$  は,  $(x, y) = (-3, 2)$  である。  
 (2)  $6x+9y=1$  は  $3(2x+3y)=1$  と変形すると,  $x, y$  が整数のとき, 左辺は 3 の倍数, 右辺は 3 の倍数でないので, 満たす  $(x, y)$  の組は存在しない。  
 (3) 自然数  $p, q$  に対し,  $px+qy=1$  を満たす整数を  $(x, y) = (x_0, y_0)$  とおくと,

$$px_0 + qy_0 = 1, \quad \frac{x_0}{q} + \frac{y_0}{p} = \frac{1}{pq} \dots\dots\dots \textcircled{1}$$

このとき,  $k$  を整数とすると, ①から,

$$\begin{aligned} \left( \cos \frac{2\pi}{pq} + i \sin \frac{2\pi}{pq} \right)^k &= \left\{ \cos 2\pi \left( \frac{x_0}{q} + \frac{y_0}{p} \right) + i \sin 2\pi \left( \frac{x_0}{q} + \frac{y_0}{p} \right) \right\}^k \\ &= \left\{ \left( \cos \frac{2\pi}{q} x_0 + i \sin \frac{2\pi}{q} x_0 \right) \left( \cos \frac{2\pi}{p} y_0 + i \sin \frac{2\pi}{p} y_0 \right) \right\}^k \\ &= \left( \cos \frac{2\pi}{p} y_0 + i \sin \frac{2\pi}{p} y_0 \right)^k \left( \cos \frac{2\pi}{q} x_0 + i \sin \frac{2\pi}{q} x_0 \right)^k \\ &= \left( \cos \frac{2\pi}{p} + i \sin \frac{2\pi}{p} \right)^{ky_0} \left( \cos \frac{2\pi}{q} + i \sin \frac{2\pi}{q} \right)^{kx_0} \end{aligned}$$

したがって, 集合  $X_n = \left\{ \left( \cos \frac{2\pi}{n} + i \sin \frac{2\pi}{n} \right)^k \mid k \text{ は整数} \right\}$  とするとき, 集合  $X_{pq}$  に属するすべての数は,  $X_p$  に属する数と  $X_q$  に属する数の積で表される。

- (4)  $\cos \frac{2\pi}{pq} + i \sin \frac{2\pi}{pq}$  が  $X_p$  に属する数と  $X_q$  に属する数の積で表されるとき,

$$\cos \frac{2\pi}{pq} + i \sin \frac{2\pi}{pq} = \left( \cos \frac{2\pi}{p} + i \sin \frac{2\pi}{p} \right)^l \left( \cos \frac{2\pi}{q} + i \sin \frac{2\pi}{q} \right)^m \quad (l, m \text{ は整数})$$

$$\cos \frac{2\pi}{pq} + i \sin \frac{2\pi}{pq} = \cos \left( \frac{2\pi l}{p} + \frac{2\pi m}{q} \right) + i \sin \left( \frac{2\pi l}{p} + \frac{2\pi m}{q} \right)$$

これより,  $j$  を整数として,  $\frac{2\pi}{pq} = \frac{2\pi l}{p} + \frac{2\pi m}{q} + 2\pi j$  となり,

$$\frac{1}{pq} = \frac{l}{p} + \frac{m}{q} + j, \quad ql + pm + pqj = 1 \dots\dots\dots \textcircled{2}$$

ここで,  $p$  と  $q$  の最大公約数を  $g$  として,  $p = gp', q = gq'$  とおくと, ②から,

$$gq'l + gp'm + g^2p'q'j = 1, \quad g(q'l + p'm + gp'q'j) = 1$$

これより  $g$  は 1 の約数となり  $g = 1$  である。すなわち  $p$  と  $q$  は互いに素である。

### [解説]

極形式の複素数の集合に不定方程式を絡ませた問題です。後半では, 問題文を理解する力が問われています。

4

問題のページへ

(1)  $f(t) = 2\cos t + \cos 2t$ ,  $g(t) = 2\sin t - \sin 2t$  に対して,

$$\begin{aligned} f(t)\sin\frac{\alpha}{2} + g(t)\cos\frac{\alpha}{2} &= (2\cos t + \cos 2t)\sin\frac{\alpha}{2} + (2\sin t - \sin 2t)\cos\frac{\alpha}{2} \\ &= 2\left(\sin t \cos\frac{\alpha}{2} + \cos t \sin\frac{\alpha}{2}\right) - \left(\sin 2t \cos\frac{\alpha}{2} - \cos 2t \sin\frac{\alpha}{2}\right) \\ &= 2\sin\left(t + \frac{\alpha}{2}\right) - \sin\left(2t - \frac{\alpha}{2}\right) \cdots \cdots \textcircled{1} \end{aligned}$$

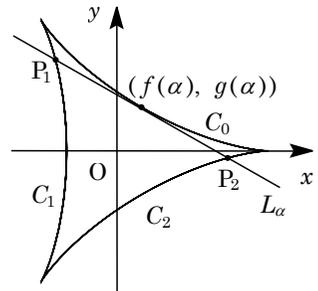
(2) ①より,  $f(\alpha)\sin\frac{\alpha}{2} + g(\alpha)\cos\frac{\alpha}{2} = 2\sin\left(\alpha + \frac{\alpha}{2}\right) - \sin\left(2\alpha - \frac{\alpha}{2}\right) = \sin\frac{3\alpha}{2}$  となり,

$$\begin{aligned} (f(t) - f(\alpha))\sin\frac{\alpha}{2} + (g(t) - g(\alpha))\cos\frac{\alpha}{2} &= 2\sin\left(t + \frac{\alpha}{2}\right) - \sin\left(2t - \frac{\alpha}{2}\right) - \sin\frac{3\alpha}{2} \\ &= 2\sin\left(t + \frac{\alpha}{2}\right) - 2\sin\frac{2t + \alpha}{2}\cos\frac{2t - 2\alpha}{2} \\ &= 2\sin\left(t + \frac{\alpha}{2}\right) - 2\sin\left(t + \frac{\alpha}{2}\right)\cos(t - \alpha) = 2\sin\left(t + \frac{\alpha}{2}\right)\{1 - \cos(t - \alpha)\} \\ &= 2\sin\left(t + \frac{\alpha}{2}\right) \cdot 2\sin^2\frac{t - \alpha}{2} = 4\left(\sin\frac{t - \alpha}{2}\right)^2 \sin\left(t + \frac{\alpha}{2}\right) \cdots \cdots \textcircled{2} \end{aligned}$$

(3)  $x = f(t)$ ,  $y = g(t)$  で表される曲線について,  
 $0 < t < \frac{2}{3}\pi$ ,  $\frac{2}{3}\pi < t < \frac{4}{3}\pi$ ,  $\frac{4}{3}\pi < t < 2\pi$  の部分をそれぞれ  $C_0$ ,  $C_1$ ,  $C_2$  とすると,

$$\frac{dy}{dx} = \frac{g'(t)}{f'(t)} = \frac{2\cos t - 2\cos 2t}{-2\sin t - 2\sin 2t} = -\frac{\cos t - \cos 2t}{\sin t + \sin 2t}$$

ここで, 点  $(f(\alpha), g(\alpha))$  ( $0 < \alpha < \frac{2}{3}\pi$ ) における  $C_0$



の接線  $L_\alpha$  の傾きを  $\tan\theta$  ( $-\frac{\pi}{2} < \theta < \frac{\pi}{2}$ ) とおくと,

$$\tan\theta = -\frac{\cos\alpha - \cos 2\alpha}{\sin\alpha + \sin 2\alpha} = -\frac{2\sin\frac{3\alpha}{2}\sin\frac{\alpha}{2}}{2\sin\frac{3\alpha}{2}\cos\frac{\alpha}{2}} = -\tan\frac{\alpha}{2} = \tan\left(-\frac{\alpha}{2}\right)$$

すると,  $-\frac{\pi}{2} < \theta < \frac{\pi}{2}$ ,  $-\frac{\pi}{3} < -\frac{\alpha}{2} < 0$  より,  $\theta = -\frac{\alpha}{2}$  である。

(4) (3)から,  $L_\alpha: y - g(\alpha) = -\left(\tan\frac{\alpha}{2}\right)(x - f(\alpha))$  となり,  $x = f(t)$ ,  $y = g(t)$  と連

立すると,  $g(t) - g(\alpha) = -\left(\tan\frac{\alpha}{2}\right)(f(t) - f(\alpha))$  となり,

$$(f(t) - f(\alpha))\sin\frac{\alpha}{2} + (g(t) - g(\alpha))\cos\frac{\alpha}{2} = 0$$

すると, ②より,  $4\left(\sin\frac{t - \alpha}{2}\right)^2 \sin\left(t + \frac{\alpha}{2}\right) = 0$  となり,

$$\sin\frac{t - \alpha}{2} = 0 \quad \text{または} \quad \sin\left(t + \frac{\alpha}{2}\right) = 0 \cdots \cdots \textcircled{3}$$

(i)  $\frac{2}{3}\pi < t < \frac{4}{3}\pi$  のとき  $0 < \alpha < \frac{2}{3}\pi$  から  $0 < \frac{\alpha}{2} < \frac{\pi}{3}$  となり,

$$0 < \frac{t-\alpha}{2} < \frac{2}{3}\pi, \quad \frac{2}{3}\pi < t + \frac{\alpha}{2} < \frac{5}{3}\pi$$

このとき,  $\sin \frac{t-\alpha}{2} > 0$  となるので, ③から  $\sin\left(t + \frac{\alpha}{2}\right) = 0$ , すなわち  $t + \frac{\alpha}{2} = \pi$  より  $t = \pi - \frac{\alpha}{2}$  である。すると, 点  $P_1$  の座標は,

$$\left(f\left(\pi - \frac{\alpha}{2}\right), g\left(\pi - \frac{\alpha}{2}\right)\right) = \left(-2\cos\frac{\alpha}{2} + \cos\alpha, 2\sin\frac{\alpha}{2} + \sin\alpha\right)$$

(ii)  $\frac{4}{3}\pi < t < 2\pi$  のとき  $0 < \alpha < \frac{2}{3}\pi$  から  $0 < \frac{\alpha}{2} < \frac{\pi}{3}$  となり,

$$\frac{\pi}{3} < \frac{t-\alpha}{2} < \pi, \quad \frac{4}{3}\pi < t + \frac{\alpha}{2} < \frac{7}{3}\pi$$

このとき,  $\sin \frac{t-\alpha}{2} > 0$  となるので, ③から  $\sin\left(t + \frac{\alpha}{2}\right) = 0$ , すなわち  $t + \frac{\alpha}{2} = 2\pi$  より  $t = 2\pi - \frac{\alpha}{2}$  である。すると, 点  $P_2$  の座標は,

$$\left(f\left(2\pi - \frac{\alpha}{2}\right), g\left(2\pi - \frac{\alpha}{2}\right)\right) = \left(2\cos\frac{\alpha}{2} + \cos\alpha, -2\sin\frac{\alpha}{2} + \sin\alpha\right)$$

$$(i)(ii) \text{より, } P_1P_2^2 = \left(4\cos\frac{\alpha}{2}\right)^2 + \left(-4\sin\frac{\alpha}{2}\right)^2 = 16\left(\cos^2\frac{\alpha}{2} + \sin^2\frac{\alpha}{2}\right) = 16$$

したがって,  $P_1P_2 = 4$  となり, 線分  $P_1P_2$  の長さは  $\alpha$  によらず一定である。

### [解 説]

パラメータ曲線についての総合問題です。4 つの設問が 1 つのストーリーを描くように構成されています。ただ, 計算量はかなりありますが。